

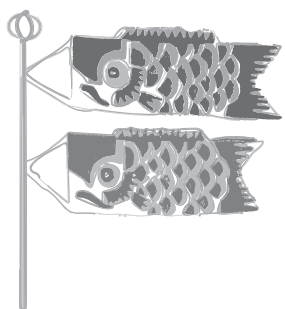


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第三十四号〜

立夏りっか

五月五日



神宮五十鈴川幼稚園

五月五日は子どもの日。もともとは端午たんごの節句で、ひと月遅れの旧暦の時代は梅雨時にあたりました。けれど新暦に変わった今では、山には新緑があふれ、田には植えたばかりの早苗が揺れる生命力に充ちた季節。子どもの日と呼ぶにふさわしい祝日となりました。

宇治の子どもたちは、ほとんどが町内の五十鈴川幼稚園、進修しんしゅう小学校、五十鈴中学へと通います。高校、大学はそれぞれですが、皆に共通な幼稚園、小学校の話題は会合でもよく耳にします。

特に五十鈴川幼稚園は、昭和二十七年に宇治四ヶ町しからちょうの要望によって神宮司庁が運営するようになった神宮の幼稚園。正式には神宮五十鈴川幼稚園といえます。神さまの恵みや祖先の恩への感謝を教育方針にするなど、他の幼稚園にはない取り組みをしています。

一つに毎月の内宮参拝があります。幼稚園では毎月子どもたちが歩いて内宮まで参拝に行くのが恒例行事です。幼子の足には遠く、つらかったといいますが、それでもきちんと並んで参拝する姿は、内宮のお膝元の子どもたちになさわしいと思います。

もう一つは毎朝の神拝です。朝十時頃、園内の神殿前に整列し、当番の子どもが御簾おのゝみを開け、「大御神おほみかみさま、お恵みありがとうございます。今日も一日どうぞお守り下さいませ」と拝むのです。

宇治の人たちは年配の方だけでなく、若い人でもあたり前のように神さまを拝みます。きっと幼い頃からの躰しっけで、身につけている所作だからでしょう。五十鈴川幼稚園、神さまを敬う心はここでも育まれていたのです。

文 千種清美

